

科目名	人文学講読演習 I 2 - 2					単位	2.0
担当教員	沼波 政保						
授業形態	演習	開講期間	前期	配当年次	2	授業番号	3222

●授業のテーマ

中世隠者文学 I 『方丈記』

●到達目標

中世隠者文学のうち、『方丈記』の内容を理解することを通して、人間の精神的営為の表出である文学の感動・美がどこに存するかを知る能力を得、さらに日本中世文学の特色を知る。

●学習内容(授業概要)

言うまでもなく、文学は人間の精神的営為の表出である。したがって、文学を享受するという事は、そこに表われている人間心理を享受することである。当然、そこには時代背景が多分に影響している。

平安末期から中世にかけては、荘園制の崩壊、貴族の没落・武士の抬頭、天変地異等によってそれまでの価値観が崩れ、我が国史上未曾有の一大転換期であった。そのような時代背景の中、多くの隠者を生んだが、彼らが草庵にあってものしたのが隠者文学（草庵文学）である。

『方丈記』は鴨長明によって著された作品であるが、そこには長明という一人の人間の精神的苦悩が語られている。

先が見えず混迷の現代、もう一度足元をしっかりと見つめ、人間とは何か、私とは何かを考え、私たちの生に何が最も大切なのかを、この講読を通して人間の精神的営為を考察しつつ、考えていきたい。

●学習内容(授業計画)

- 第 1 講 序説
- 第 2 講 隠者文学とは
- 第 3 講 鴨長明略伝
- 第 4 講 行く川の流れ
- 第 5 講 五大災害① 大火
- 第 6 講 五大災害② 辻風
- 第 7 講 五大災害③ 遷都
- 第 8 講 五大災害④ 飢饉
- 第 9 講 五大災害⑤ 大地震
- 第 10 講 出家
- 第 11 講 閑居の生活① 草庵の様子
- 第 12 講 閑居の生活② 悠々自適
- 第 13 講 長明の苦悩
- 第 14 講 『方丈記』の感動
- 第 15 講 結講

●準備学習・事後学習の内容

前回の授業内容を理解した上で授業に臨む。

毎回の授業後には、授業の内容をノートに整理し、テーマについて理解しておく。

●成績評価方法・基準

授業中に行なう臨時テスト（2～3回）の成績（70%）に受講態度（30%）を加味して評価する。

●テキスト（必携）

適宜、プリントを配布する。

●参考文献／その他

適宜、紹介する。

●履修上の注意

主体的態度で受講することを望む。遅刻を慎み、必ずノートを取ること。ノートを取らないとテストに対応できない。